

## 平成18年度 第5回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成19年3月15日（木）18:30～19:30  
横須賀市立市民活動サポートセンター

出席委員 10名……柴崎、多田、伊藤、井上、小野、角田、佐藤、鷹野、増田、有森  
事務局 4名……YMCAコミュニティサポート 安田、高村  
市民生活課 小座野、堀井

### 1 報告事項

次第に沿って報告を行った。

### 2 審議事項

(1) 市民公益活動団体について、提案どおり承認された。

### [意見概要]

#### ◆ のたろんフェア2007について

(井上委員)

前回のフェアで課題となっていたが、看板などは保管してあるのか。

(事務局・指定管理者)

保管している。

(増田委員)

のたろんフェア実行委員長として一言。今年は「のたろんプロジェクト」ということで4つのプロジェクトを同時進行させたため、従来だったらフェアに集中できた人員が足りなかった。実行委員の人たちも初めてボランティアをする人が多かったうえに、センターのスタッフが半分以上変わった中で新しい試みを重複して行うのは大変だった。一番の問題は、経験者がほとんどいないため、実行委員全体の方向性を合わせるのが難しかった点。できれば複数のプロジェクトを同時進行することはやめてほしかった。これが終わったら、次にこれをやってくださいね、というやり方なら何とかなるかもしれないが、現在こういったことを上手に動かす人材がまだ出てきていない。自分の活動が手一杯で実行委員まで手が出せないのかもしれないが人材が不足していることは否めない。何度も話し合ったが、残念ながら最後までベクトルを合わすことが出来なかった。結果は結果として、やはり経過も大切だと思う。その点は反省している。ただ次に向けて何かすることは出来ると思うので、そういう点で次回も頑張らせていただきたい。

(柴崎委員)

次回ののたろんフェアに向けて、今年はいつから活動を始めるのか。

(事務局・指定管理者)

いつからというのは、まだ決まっていない。今回は100周年プロジェクトとして、のたろんフェアに関しては今までスタッフが中心に企画をてがけてきたものを、広く公募をかけてボランティアを中心に行った。様々な方たちに実行委員として多数参加していただけたが、フェア開催に至るまでの調整など難しさはあったと思う。今後もより良い方向で運営していけるように、今年の反省を生かしてやっていきたい。出来れば早いうちから動かしていきたいと考えている。

(事務局・市民生活課)

前回までは例年、フェア実行委員を広報よこすかお知らせ版9月25日号で公募しており、10月頃から実行委員会が立ち上がって3、4ヶ月位かけて取り組んでいた。今回は100周年ということもあり、5月位からプロジェクト実行委員を募集し、その中からフェア担当者を募り、そこからフェアに向けて一から考えの擦り合わせをするということがあったので、かなり時間もかかったし、様々なご苦勞もあったと思う。来年どのような形でやっていくのかというのは、今までの形に戻すのか今回を踏襲していくのかを含め、これから事務局や運営委員会で決めていくことになると思う。

(鷹野委員)

今回ボランティアで一からフェアを作り上げたのはすごく良かった。色々な意見が出てきてまとめるのは大変だったと思うが、実行委員長の増田さんのリーダーシップや、参加した実行委員をはじめとするボランティア、参加団体の力の結集があった。また裏方として事務局がよく支えてくれたと思う。今回、色々な意味で大変だったが一つの形ができたのではないかと思う。早め早めに計画をして、来年度もこの形を繋げていったらよいのではないか。

#### ◆ のたろん報告会について

(事務局・指定管理者)

前回の運営委員会でもお伝えしたが、100周年記念の4つのプロジェクトの集大成として3月24日(土)13時30分から15時30分、総合福祉会館5階ホールで報告会を行う。4つのプロジェクトそれぞれの活動報告を行い、それぞれのプロジェクトに関わったたくさんの方々に集まっていただき交流を深めたいと考えている。当日参加する運営委員の方は設営準備にご協力いただきたい。

(柴崎委員)

当日は何人くらいが参加する予定か。

(事務局・指定管理者)

まだ返事をいただいている方が、50人程度が参加予定。

(増田委員)

報告会で、プロジェクトの全体像が分かる物を配った方がよいのではないか。

(事務局・指定管理者)

各プロジェクトの内容がわかるようなプログラムを配布する予定。また、この一年間たくさんの方にご協力いただいたので、のたろんプロジェクトに関わった方、団体全てのお名前を記すことにしている。

#### ◆ 春の市民活動体験について

(事務局・指定管理者)

今回は21団体、22イベントに参加していただいている。中間報告としては、申し込み数が少なく残念ながらイベント中止になってしまった団体もある状況。春の市民活動体験に対しては、以前から参加者が少ないという声もあるので、広報やイベント自体の方法についても軌道修正をする必要があるのかもしれない。4月6日(金)19時から本事業の報告会があるので、参加団体の意見を聞いた上で今後のあり方を考えていきたい。3月19日に追浜高校でボランティア説明会を行う際に、春の市民活動体験の中で高校生も参加できるような行事を紹介する。

(多田委員)

資料的には手間をかけている割には効果が現れていない。広報が足りないか。情報が多くて資料の中からピックアップするのが難しいのではないか。3月後半だとまだ応募もあるようだが、前半は人が集まらない。せっかくやっているのにもったいないと思う。

(柴崎委員)

内容的には盛りだくさんで、資料も素晴らしいと思うのに活用されないのは残念だ。

#### ◆ 公益活動団体について

(事務局・指定管理者)

現在データベースの更新時期。「神奈川県退職公務員連盟横須賀支部」は公益活動ではなく共益に資すると考えられるため、公益性を外した。

(鷹野委員)

「福祉の輪市民会議」が削除された理由を教えてください。

**(事務局・指定管理者)**

前回の運営委員会で議題となり、議事録にも記載されているが、「福祉の輪市民会議」は市の健康福祉部の管轄である為、データベース登録をする必要がない。わざわざ登録しなくても、公益性は認められるのでデータベースに登録している団体と同じように扱われる。

**(事務局・市民生活課)**

サポートセンターのデータベースには市が把握している団体は登録していない。以前、サポートセンターを利用するために個別の町内会がどんどん登録するようになってしまった。町内会の活動はどこもほとんど同じなので、データベースに登録して広く情報を共有し活動を広めるというより、利用するためだけに登録するという状況だった。活動実態は行政でも把握しているので公益性は十分認められる。情報についても行政から提供できるので、そのために登録する必要はない。子ども会などもそういう扱いにしている。「福祉の輪市民会議」も十分公益性は認めており、活動状況も把握できるので敢えて利用のための登録はいらないという意味である。

以上